

オホーツク管内のバカガイ資源状況

【はじめに】

オホーツク総合振興局管内ではバカガイはホッキガイ桁網漁業で混獲されます。管内のバカガイ漁獲量は1985年から2009年までは54~474トンの範囲を変動していましたが、2010年には4トン、2011年には1トンと極端に減少しました。各漁協地先ではホッキガイ資源動向を把握するために桁網を用いた資源調査が行われていますが、この調査ではバカガイも採集されます。今回

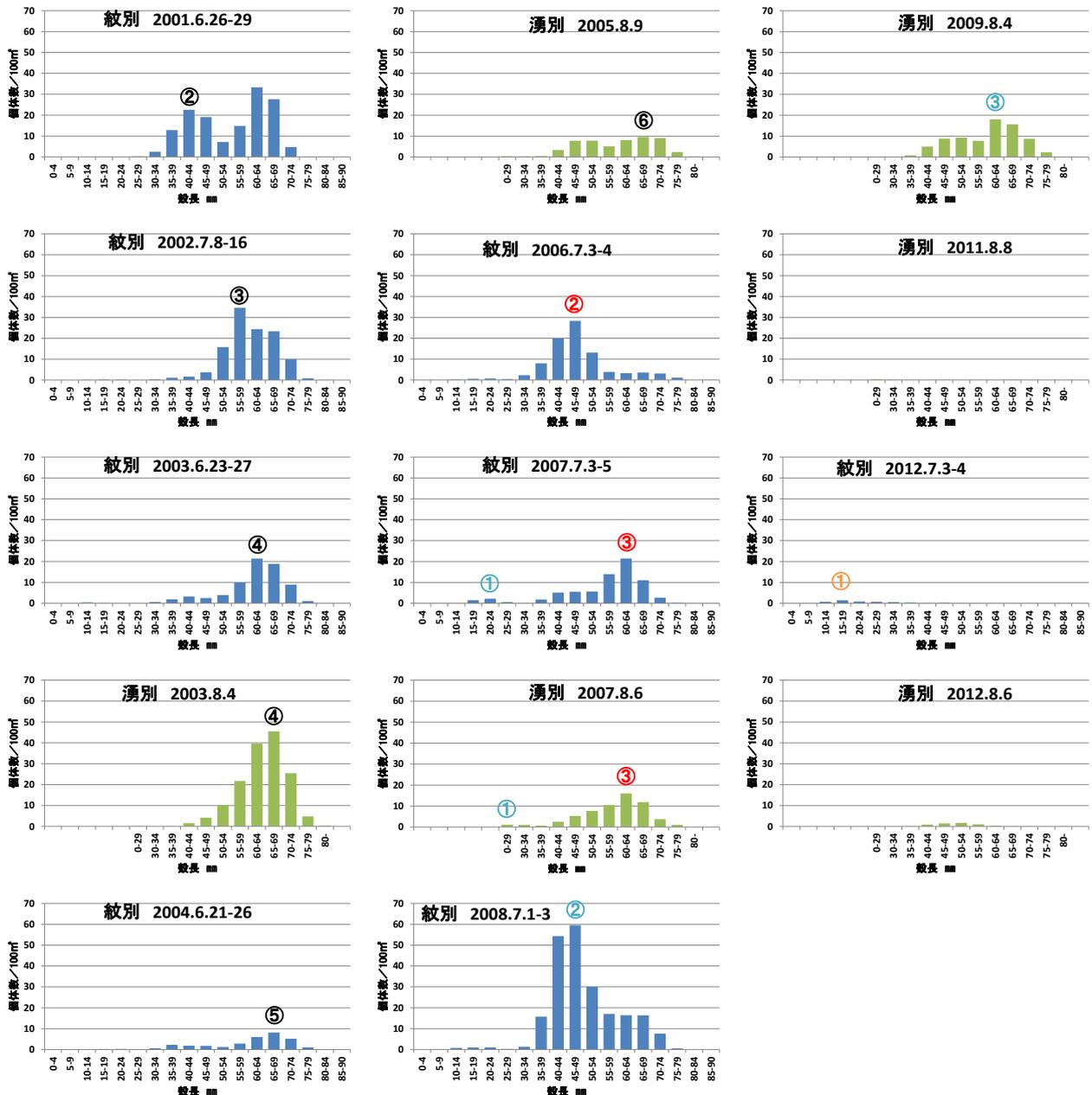


図1 紋別（青）・湧別（黄緑）海域におけるバカガイ殻長組成の推移

（図1~3の丸囲み数字の色は生まれ年を示す。○：1999年生まれ ○：2004年生まれ ○：2006年生まれ ○：2007年生まれ ○：2011年生まれ 数字は年齢を示す。）

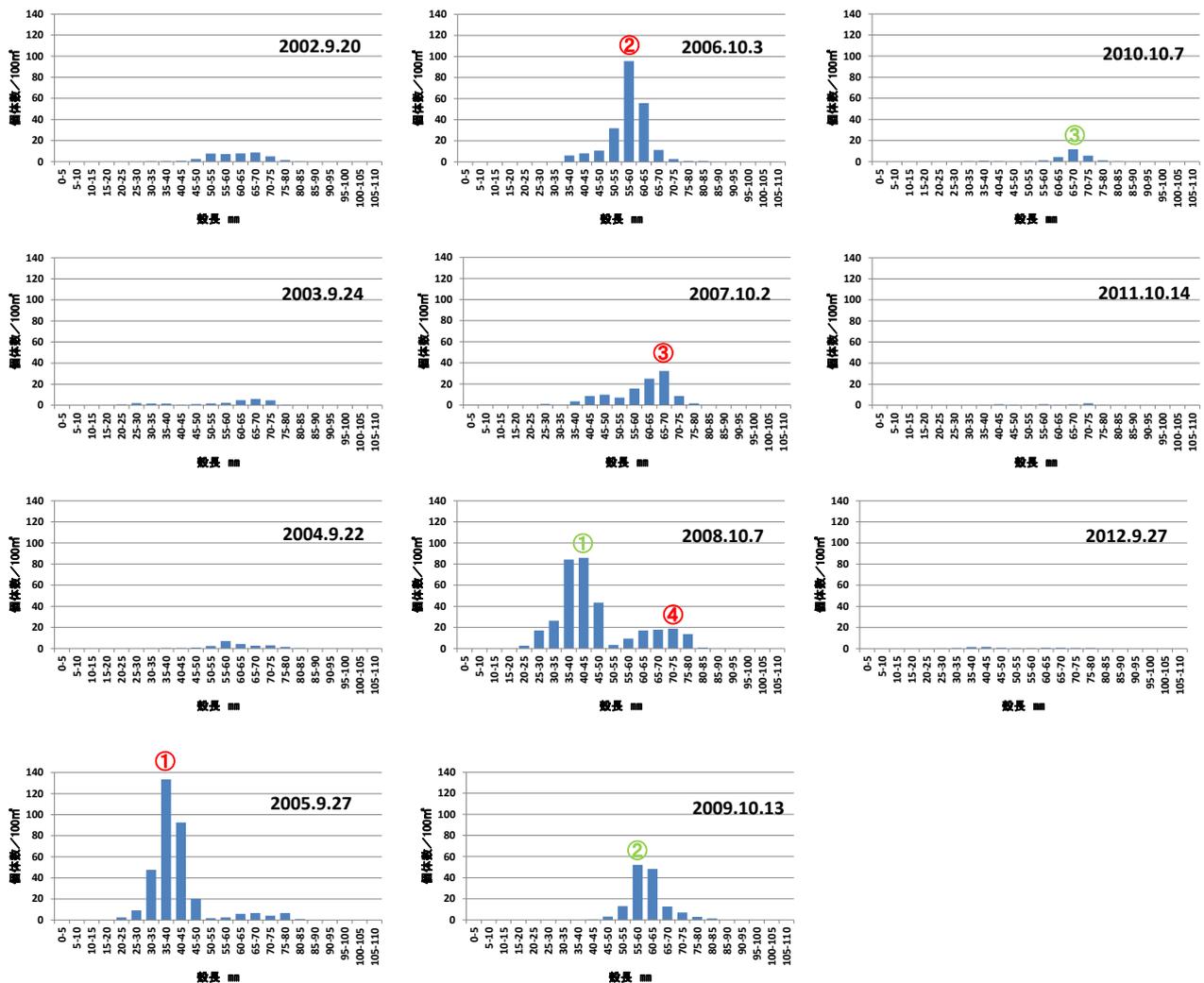


図 2 網走海域におけるバカガイ殻長組成の推移

は網走西部・網走東部水産技術普及指導所の協力を得てデータ収集を行い、バカガイ資源状況の推移について検討したので、ご紹介します。

【方法】

紋別・湧別・網走・斜里の4海域における資源調査データを整理しました。各海域では沖合方向に岸から0.3~1.5km、海岸線沿いに9.7~25.5kmの範囲に47~125定点を設け、各定点で噴流式桁網(桁幅1.2~1.3m、目合45mm)を用い、60~100mの距離を曳網しました。調査時期は紋別が6月下旬~7月中旬、湧別が8月上旬、網走が9月中旬~10月中旬、斜里が8月下旬でした。

【結果および考察】

図1~3に各海域におけるバカガイの殻長別個体数密度(100㎡あたり)を示しました。隣接する紋別と湧別については毎年のデータが揃いませんでした。2003・2007年は紋別・湧別ともにデータがあり、似た殻長組成を示していますので、両海域での殻長組成は他の年でも類似していると仮定し、一緒に図1に並べました。殻長組成分布に見られる山の頂上の年齢を推定し、丸囲み数字で示しました。1999・2004・2006年生まれの群が多く発生したことがわかります。死亡等により山の高さは年齢とともに低減傾向ですが、3~6歳まで山の形が確認できます。1歳の個体数が少ないのは、調査時期の6月下旬~8月上旬には殻長がまだ小さく、桁網の目合を通り抜けるためと考えられます。2011・2012年の個体数は少ないですが、紋別では2011年生まれの1歳が

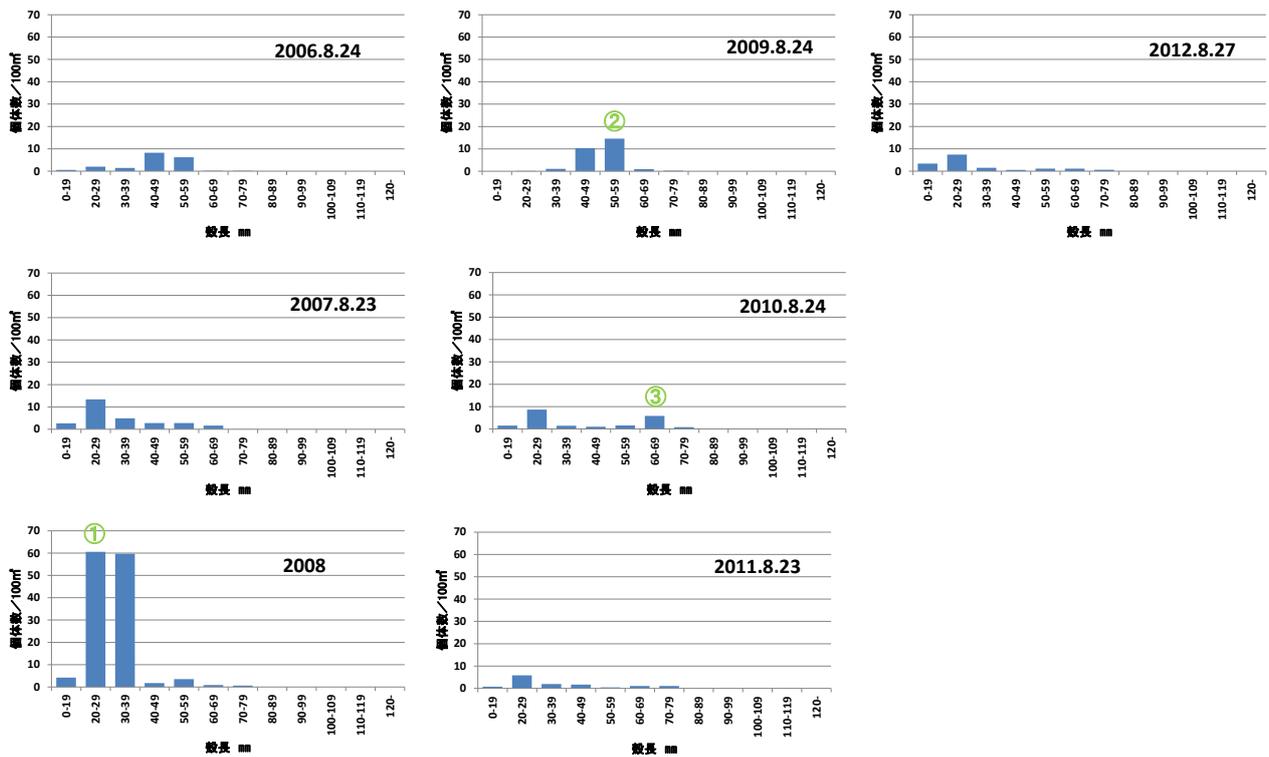


図3 斜里海域におけるバカガイ殻長組成の推移

わずかに見えています。網走（図2）では2004・2007年生まれが多く発生していました。網走の調査時期は9月中旬～10月中旬と遅いので、夏場に成長した1歳も目合を通り抜けることなく採集されています。斜里（図3）では2007年生まれが多く発生していました。調査された4海域では、大量発生年級が数年おきに出現することで、資源が維持されていました。また、大量発生年級の出現年は海域によってやや違いがみられました。4海域ともに2008年級以降は大量発生年級が出現せず、資源の減少をもたらしていると推察され、新たな大量発生年級の出現が待たれるところです。紋別の調査では1歳の多くは目合を通り抜けるので採集個体数はわずかですが、2011年生まれの1歳が2006年生まれ（大量発生年級）の1歳と同程度の個体数密度で出現しています（図1）。今後2歳以降での大量出現が期待されます。

（網走水産試験場 平野和夫）